

保護者のみなさまのご意見をお聞かせください

## 学校教育についてのアンケート

「長瀬町学校のあり方検討委員会」は令和2年7月に設置され、長瀬町の小・中学校で学ぶ児童生徒数の推移を踏まえ、児童生徒にとってのより良い教育環境について検討し、将来を展望した長瀬町の学校教育のあり方について検討しております。

現在、長瀬町立小・中学校に通学している児童生徒の保護者の皆さま、これから長瀬町立小学校に就学する予定の町内保育園・認定こども園に通園している園児の保護者の皆さまに、長瀬町の児童生徒数の推移や将来推計、施設の老朽化などの現状を知っていただき、これからの学校のあり方についてのご意見をいただくため、アンケート調査をすることになりました。

調査結果は統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。他の目的にも使用いたしませんので、ありのままのお考えをお答えください。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

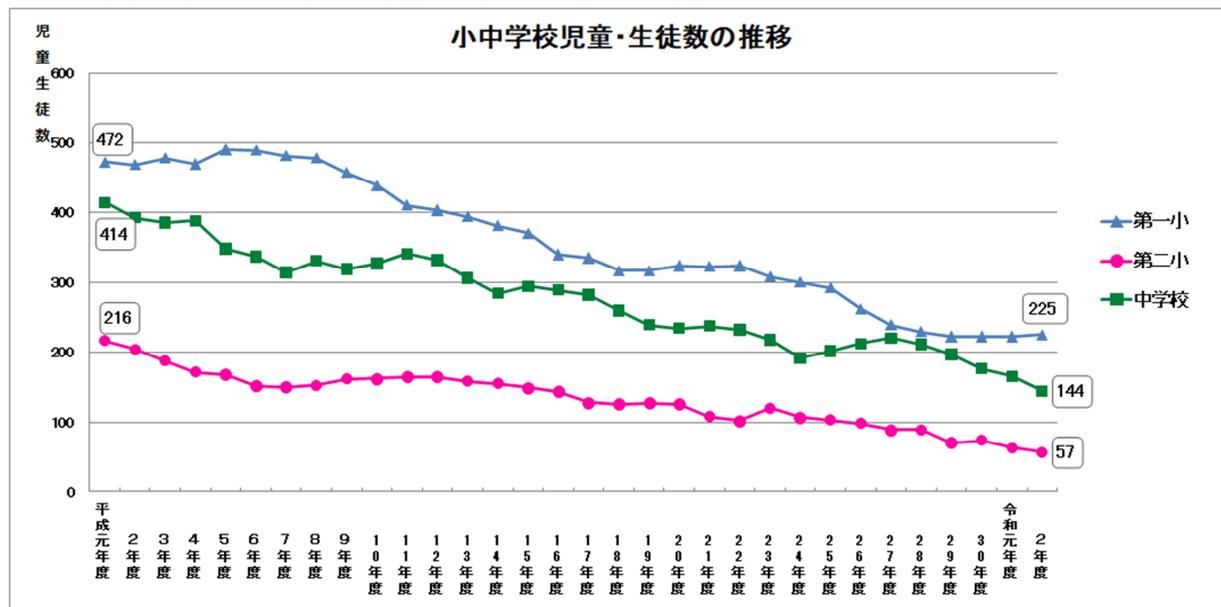
アンケート用紙は、町内小・中学校及び保育園・認定こども園に通うお子さんのいる世帯を対象に、1世帯から1回答となるよう、配布をしました。中学校では家庭数分、小学校では中学校で配布した家庭を除く家庭数分、園では小中学校に兄弟がいない家庭数分を配布しております。1家庭に複数配布された場合は、一番上のお子さん分のみ提出してください。3月10日(水)までに、用紙が配布された学校、又は園あてに提出をお願いいたします。

なお、今後は広く町民に意見を聞くためのアンケート調査も実施予定です。

令和3年2月

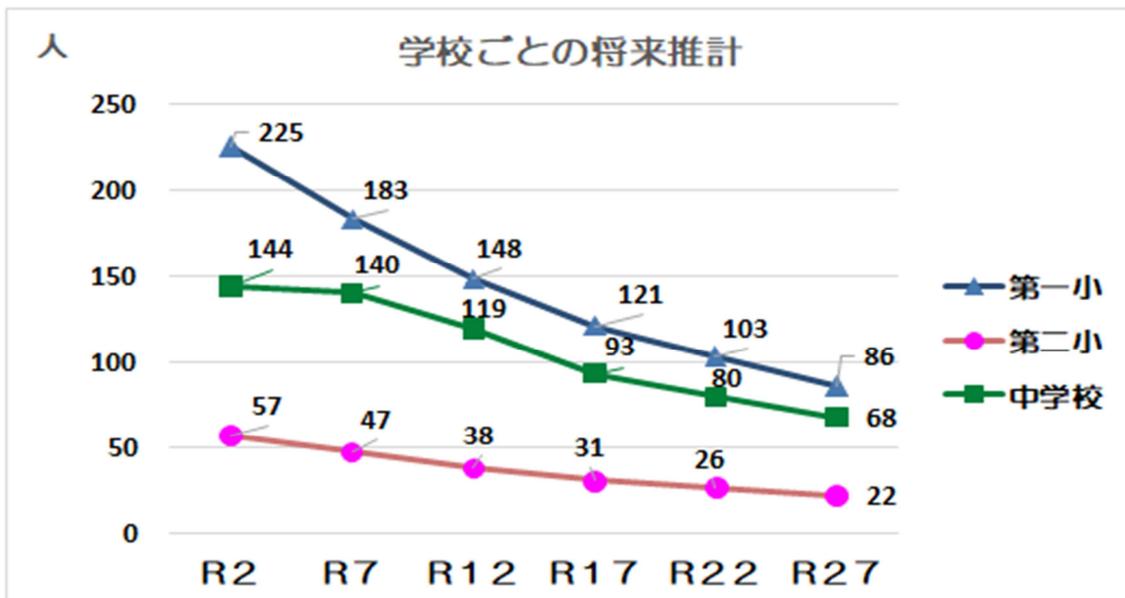
長瀬町学校のあり方検討委員会

### (1) 長瀬町立小中学校児童生徒数の推移と推計



平成元年度～令和2年度までの児童生徒数の推移を表したグラフです。30年余りの間に第一小学校は52%減、第二小学校は73%減、中学校は65%の減となっています。

令和2年度のクラス数は、中学校6クラス(各学年2クラス)、第一小学校7クラス(1年生が2クラスで他の学年は1クラス)、第二小学校6クラス(各学年1クラス)です。各校の普通学級1クラスあたりの平均人数は、中学校では23.7人、第一小学校では30.7人、第二小学校では9.2人となっています。



令和7年度までは現在の児童生徒数をもとに試算し、令和12年度以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地区別将来人口推計（平成27年度国勢調査）」をもとに教育委員会で試算した推計です。転出・転入による異動は加味していません。学校ごとの将来推計は、20年後の令和22年度には各校共に令和2年度の半数以下に減少すると見込まれ、さらに小規模化が進む見込みです。

令和3年度には第二小学校の2・3年生が複式学級になる予定で、令和22年度には第二小学校の全ての学年が複式学級になると見込まれています。複式学級とは、教員一人が一つの教室で2つの学年を担当し、学習する学級です。

## (2) 小規模校のメリット・デメリット

小規模校にはメリットとデメリット、2つの側面があります。これらをよく比較し、学校のあり方を検討していく必要があると考えています。

### 【メリット】

- ・児童生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- ・学校行事等において、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。
- ・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。
- ・異なった学年との縦の交流が生まれやすい。
- ・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。
- ・保護者や地域社会との連携が図りやすい。

### 【デメリット】

- ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なく、子供の競争心や向上心、社会性を育てにくい。
- ・1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。
- ・集団でのスポーツ競技（野球・サッカー・ドッジボール等）が十分にできない。
- ・集団の中で培われる力が育ちにくい。（我慢する力、集団の中で生きる力、集団のルール等）
- ・友人関係や相互評価などが固定化しやすい。
- ・人間関係が壊れると修復が難しい。人間関係上の問題等が発生した場合には、学級編成替えなどによる問題の解消が難しいことがある。
- ・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。

### 3) 学校施設の老朽化

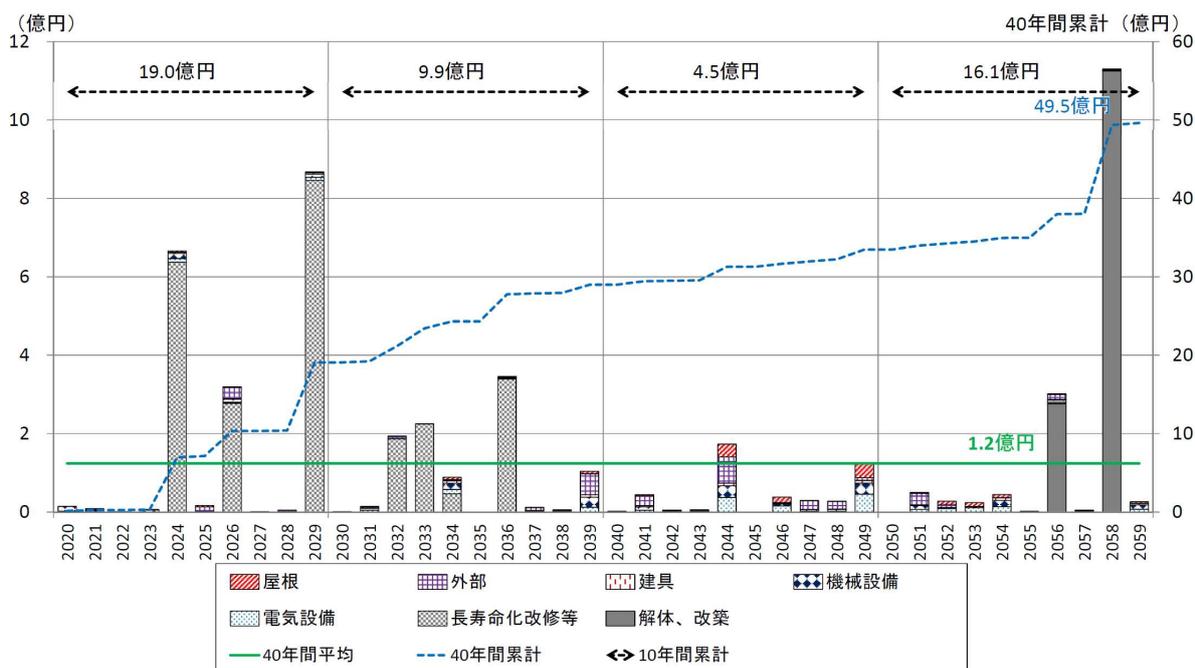
	施設名称	棟名称	建築年度	経過年数	耐用年数	目標使用年数※1
1	長瀬第一小学校	校舎	1977	43	60	85
		体育館	1978	42	60	85
2	長瀬第二小学校	校舎	1976	44	60	85
		体育館	1977	43	60	85
3	長瀬中学校	校舎	1972	48	60	85
		校舎(特別教室)	1979	41	60	85
		体育館	1970	50	60	85
		剣道場	1984	36	60	85
4	学校給食センター	共同作業所	1980	40	60	85

長瀬町では、町が所有する公共施設のうち多くを学校施設が占めており、1970年代（昭和40年代後半～50年代前半）に建築した小・中学校施設の老朽化が大きな課題となっています。

文部科学省が平成25年3月にまとめた「学校施設の老朽化対策について」によると、全国の公立小中学校のうち、鉄筋コンクリート造の学校施設を建て替えるまでの平均年数は42年となっていますが、長瀬町の学校施設は令和2年4月時点で既に築42年を超えています。これらの施設を目標使用年数（※1）まで使い続けるための小・中学校3校の施設の長寿命化工事や、目標使用年数を超えた後の中学校校舎を建て替える費用も含め、40年間で合わせて約49億円が必要になり、町民の皆さんからの税金や国からの交付金等で負担をしていくことになります。

※1 目標使用年数・・・計画的な保全を行い予防的な保全がなされる（長寿命化する）ことにより使用年数を延長した年数

#### ○長瀬町公共施設長寿命化計画による学校教育系施設の改修・建替に必要な40年間の予算



☆これらの情報を参考に、アンケートにお答えください。